



実習生が実習実施機関へ出す挨拶状。
今月は暑中見舞いのハガキに書きました。

7月に入り、もう梅雨が明けたの？と思うほどの連日の猛暑。東南アジアからの実習生の皆さんも「にほんは、とてもあついです」と悲鳴をあげるほどです。母国では、暑さ対策もあり、比較的ラフな格好で生活することが多かったと思われる皆さんですが、本校では、「学校での授業中=実習実施機関での実習中」との考えから、素足にサンダル履きでの登校や、短パンやミニスカートでの登校も控えてもらっているのも、なおさら「暑く感じる」のかも知れません。因みに、この時期になると実習生寮では、上半身裸で過ごす男性実習生が多いのですが、中庭や窓際など、他の人の目に触れる場所では、服を着てもらうことにもなっています。気候だけではなく、日本の習慣とも悪戦苦闘している実習生の皆さん。そんな皆さんの日本語学習及び寮生活を、講師・スタッフ一同、暑さに負けずにサポートしていきたいと思えます。

あじけんスコープ Vol.55 ～あじけん講師ファイル～

今月も、本校講師陣に新たに加わった新メンバーを紹介させていただきます。

初めまして。石塚裕治と申します。私はこれまで、30年以上大学受験英語の指導に携わって来ました。学習者が英語に苦戦する一方で、私も外国語を教える難しさに苦戦してきました。特に語彙力を身に付けさせる事は非常に難しい。誰しも単語暗記という果てなき反復作業には苦痛を強いられるからです。しかも単語だけでなく会話文も覚えなければならない。これはもう語学の壁というものですね。私はその壁を乗り越える為のノウハウを研究してきたので、日本語を外国語として学ぶ実習生の皆さんにもそれを伝えていきたい。本校で日本語を教えて、実習生の皆さんの学習意欲の高さには日々感動しているところです。彼らにはやがて母国に戻り、日本で学んだ技能を国の発展に活かすという未来がある。それを思うと、私自身も間接的に彼らの祖国の発展に貢献できているという訳ですから、感動の上に、やりがいと責任感を感じる次第です。日本で優秀な技能を身に付けた実習生にはずっと日本にいて欲しいところですが、そこを推して、彼らが母国に貢献出来るよう帰国させる。その様な日本の実習制度の一員として誇りを感じつつ、また、自分の経験がそっくり活かせる場を頂けたという幸運に感謝しつつ、日本語指導に残りの人生を懸けていく所存です。どうぞよろしくお願ひします。



今月の実習生



今月の実習生はベトナム人実習生の
DAU TRONG QUY (ダウ チョン クイ)
さんです。

左の写真は、今月7日(金)に行われた毎年恒例の「七夕祭り」でのワンショットです。皆さん神様の気を引こうと？競い合うように自分達の短冊に賑やかな飾り付けをするのですが、その中でも、クイさんの飾り付けは、その大きさとデザインの斬新さで、中庭に集まった皆さんの注目の的となっていました。

たなばたは、にほんで はじめてです。
わたしは、かみさまに、たくさん おねが
いしました。たばなたは、きれいで、とて
も、たのしいとおもいます。 クイ

あじけん流日本語授業

～七夕の短冊を用いた活動「願い事を書こう」～

今月のあじけん流日本語授業は、先週、各クラスで行なわれた七夕の短冊作成の授業の様子をお届けします。この活動では、願い事の書き方として、既習の文型「～がほしいです」、「～たいです」を復習しました。また、少し難易度は高くなりますが、「～ますように」（動詞の「ます形」+ように）の文型も導入して、実習生の皆さんが、思い思いの願いを、自分達で作ったカラフルな短冊に書き込みました。自分達の言いたいこと、思っていることを表現する活動なので、いつもにも増して、皆さん積極的に表現活動に取り組んでいました。色の名前の学習を兼ねて、色折り紙でたくさんの飾りも作り、明るく楽しい雰囲気の中、授業が行なわれました。授業終了後は、研修センターの中庭に設置された笹に、願いを込めて、短冊を結び付けました。



真剣に願い事を書く実習生の皆さん



授業の最後に先生と記念撮影



研修センター中庭に設置された竹笹に短冊を結ぶ実習生



七夕（たなばた）の導入・指導



※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます